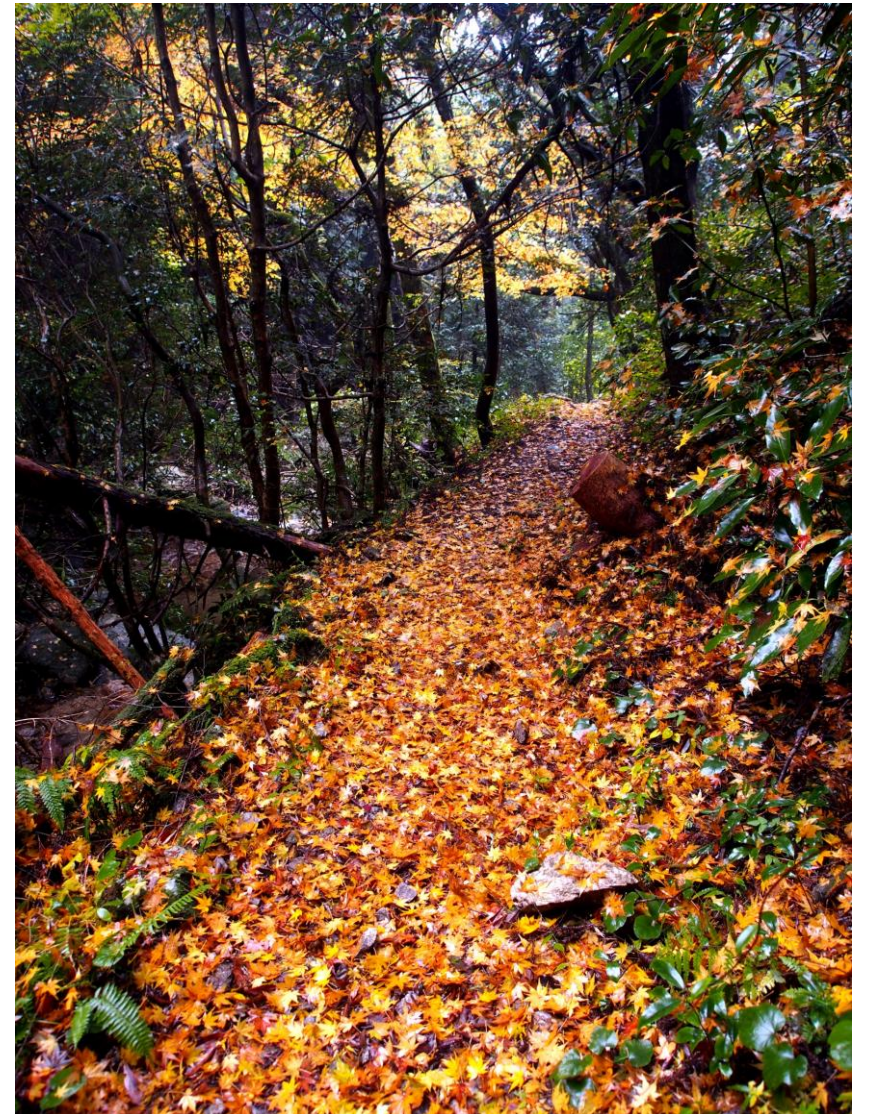
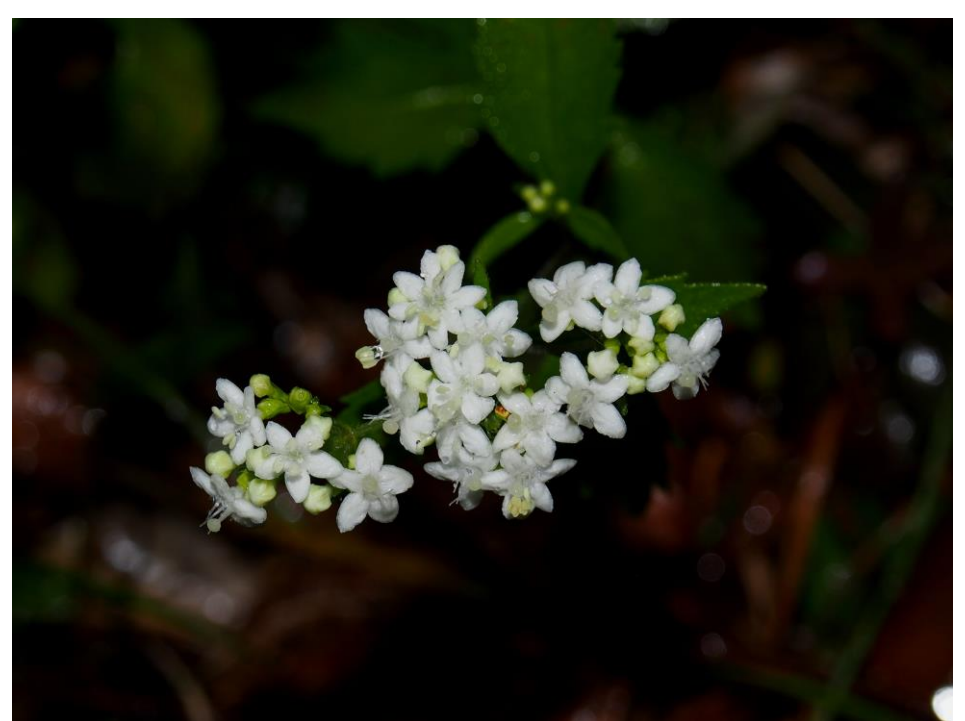
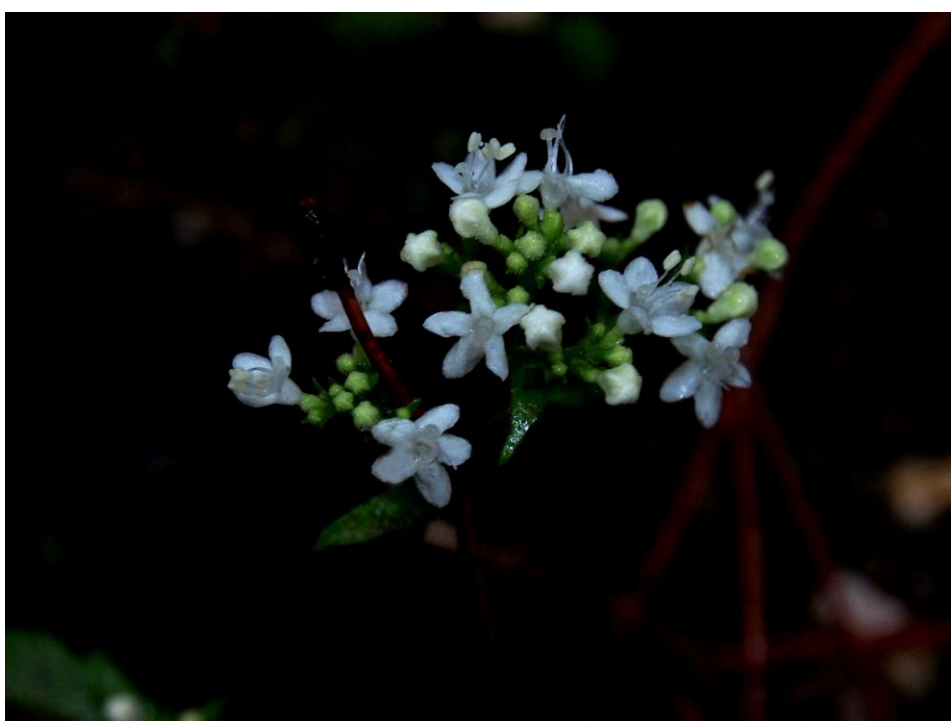


2016.11.12

佐賀市・脊振山系・金山967mの紅葉









ツクシアザミ(筑紫薊) キク科



ツクシアザミ(筑紫薊) キク科



アキノキリンソウ(秋の麒麟草)
キク科



シラヤマギク(白山菊) キク科



フユノハナワラビ(冬の花蕨)
ハナヤスリ科
別名:フユワラビ(冬蕨)



フユノハナワラビ(冬の花蕨)
ハナヤスリ科
別名:フユワラビ(冬蕨)



広域基幹林道・金山脊振線

10:37 登山口に近い場所へ移動



フユイチゴ(冬苺) バラ科



10:40

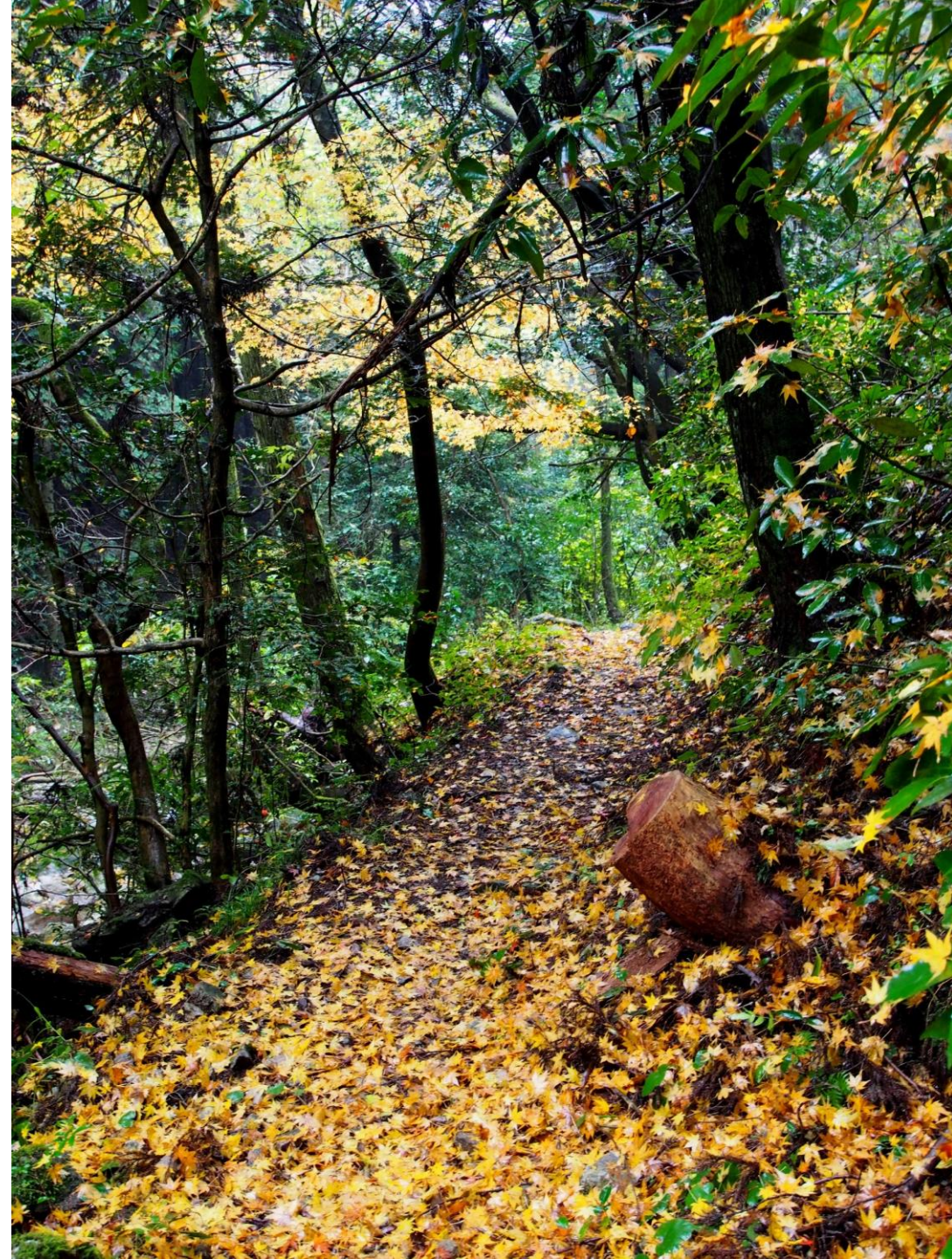
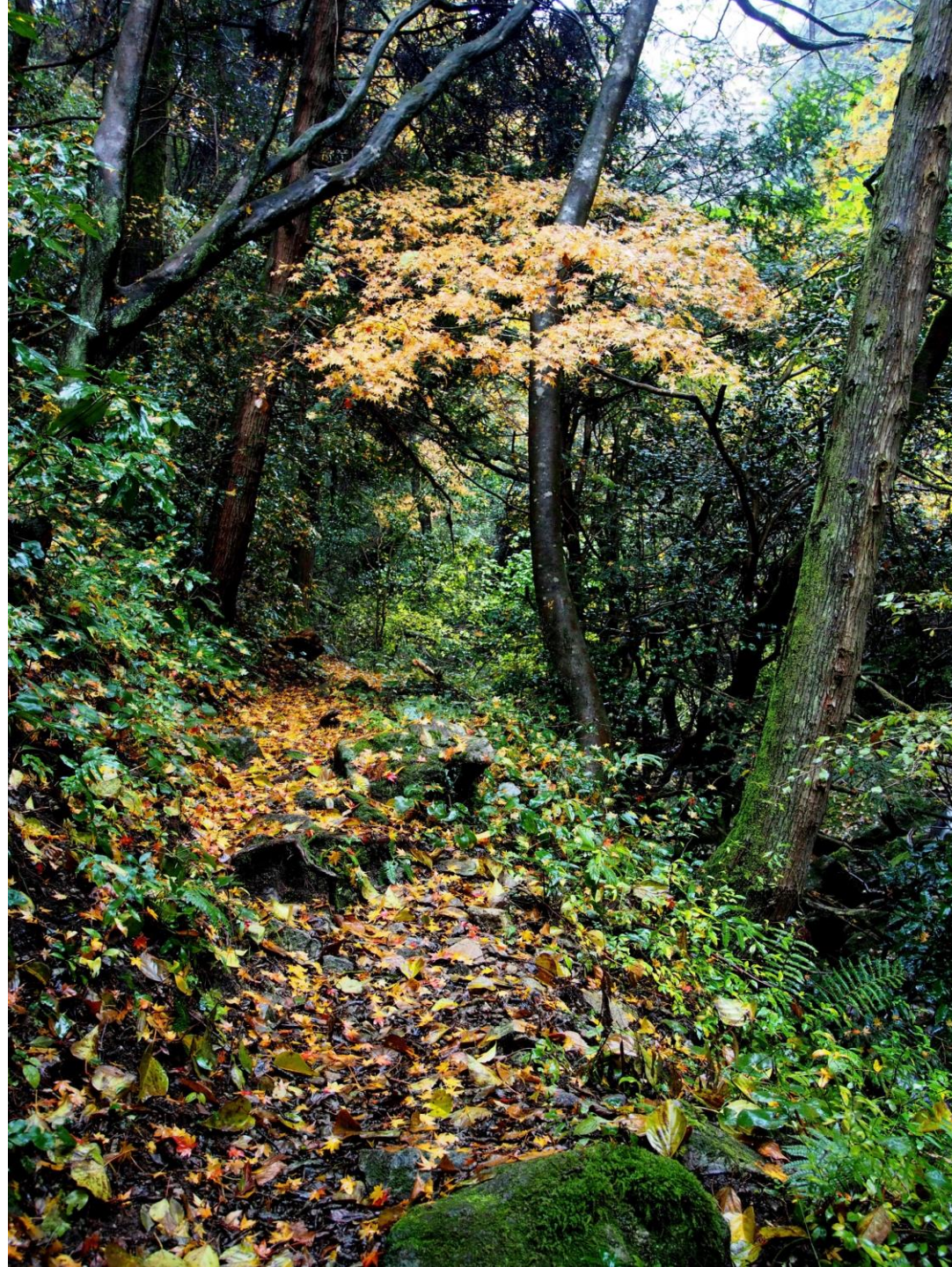
広域基幹林道・金山脊振線



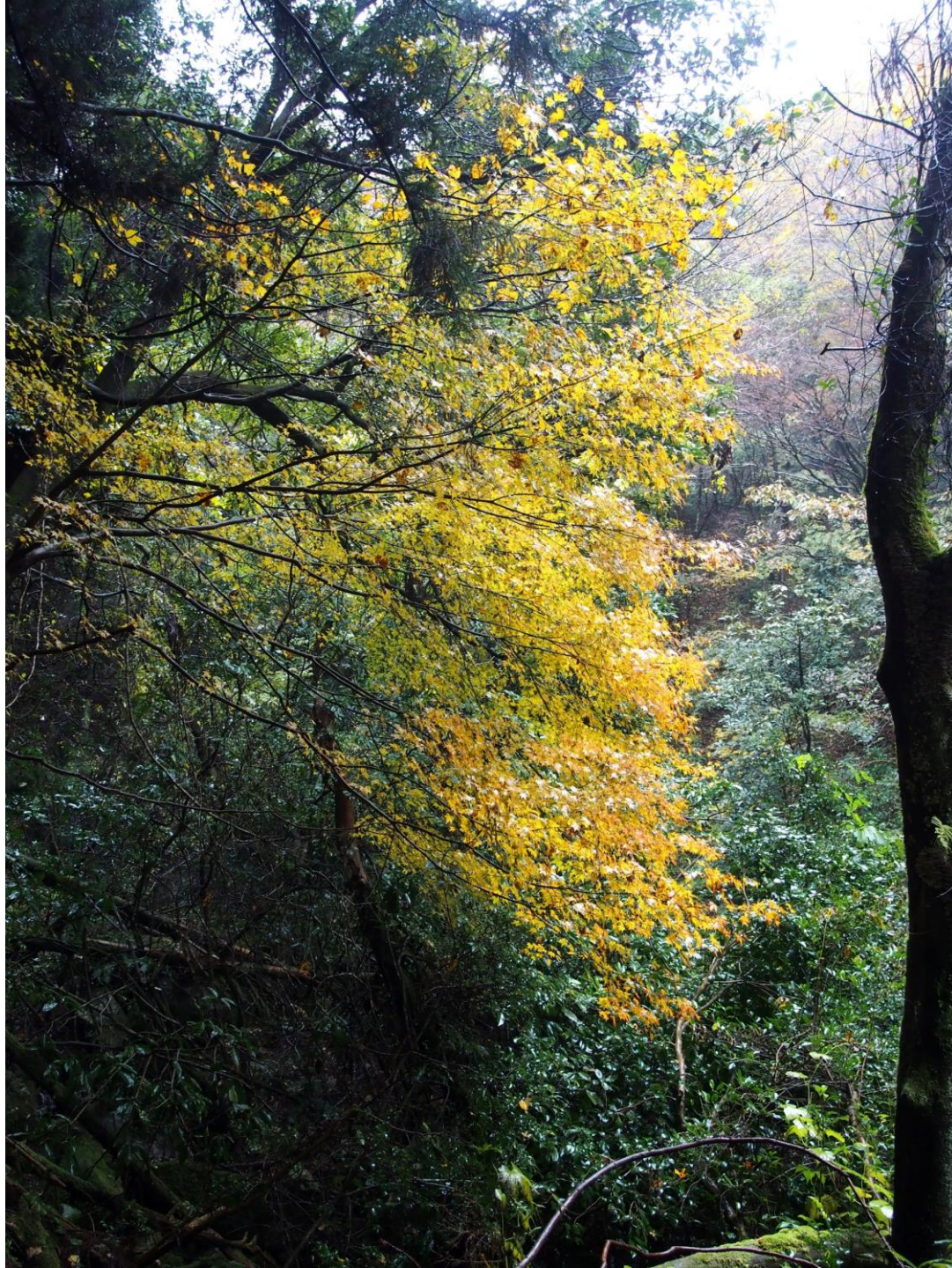
36

金山 70分

10:41

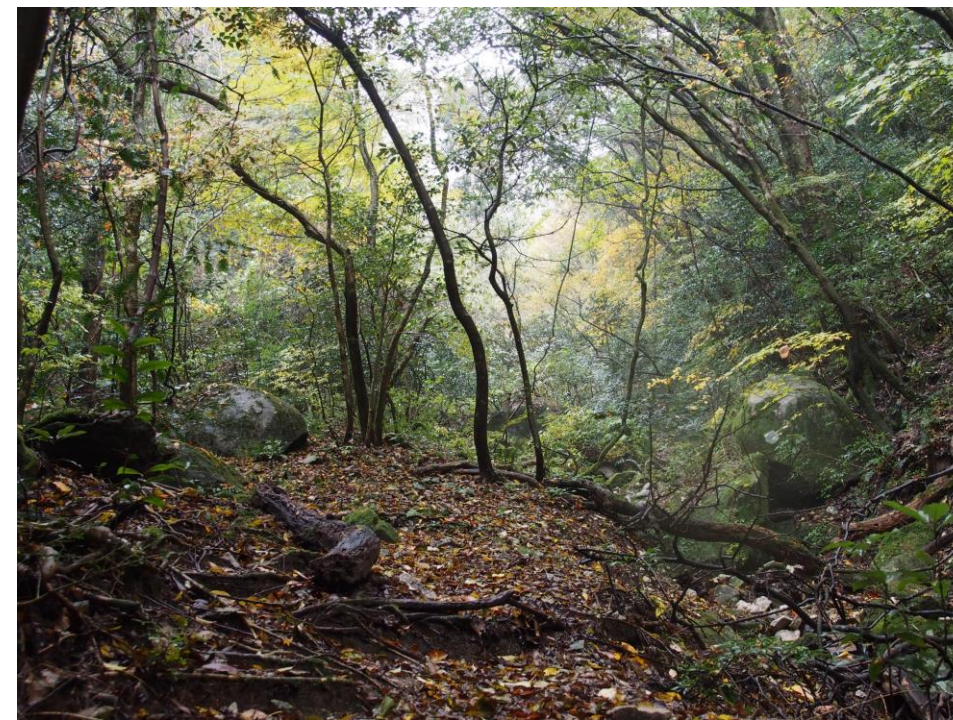






10:53

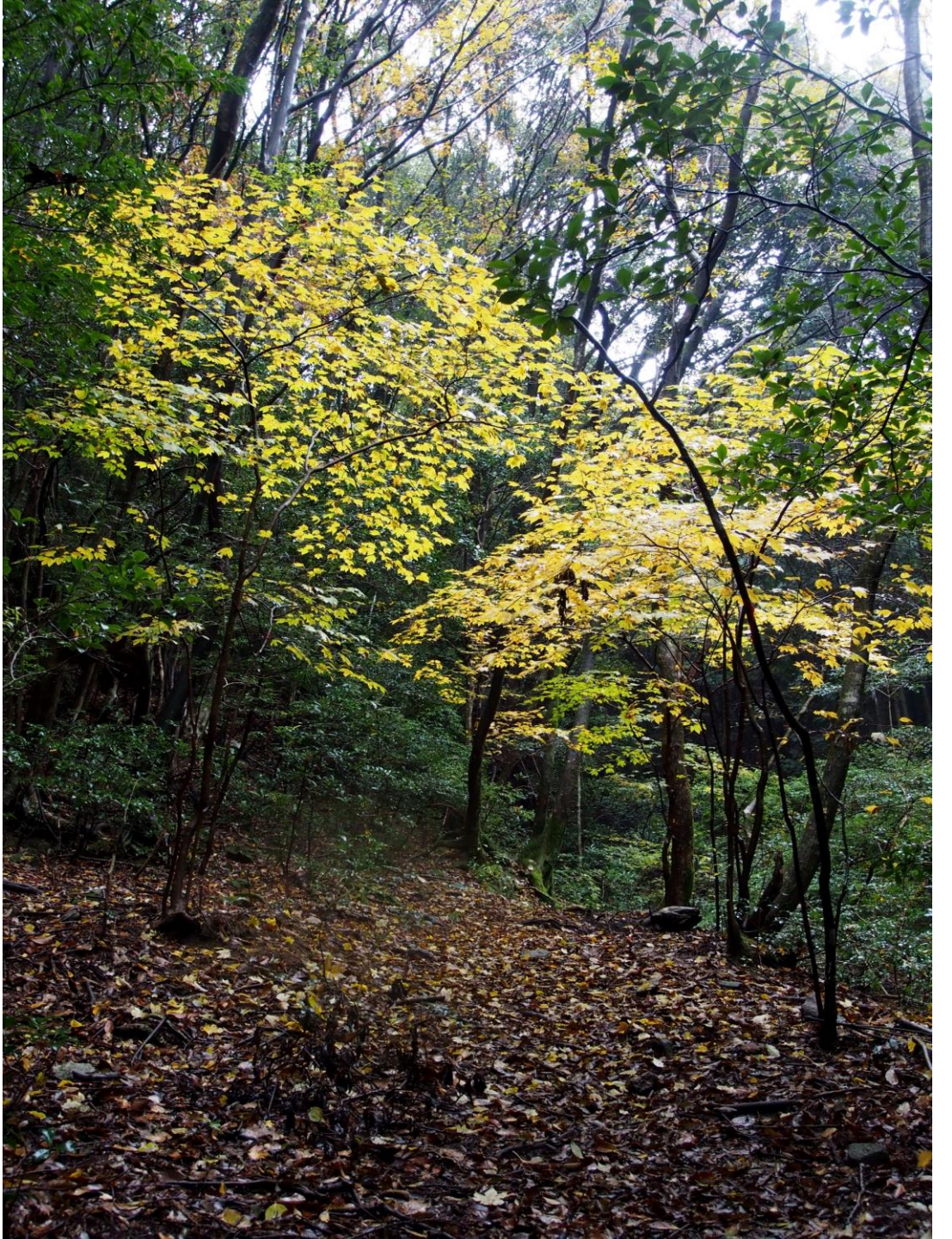
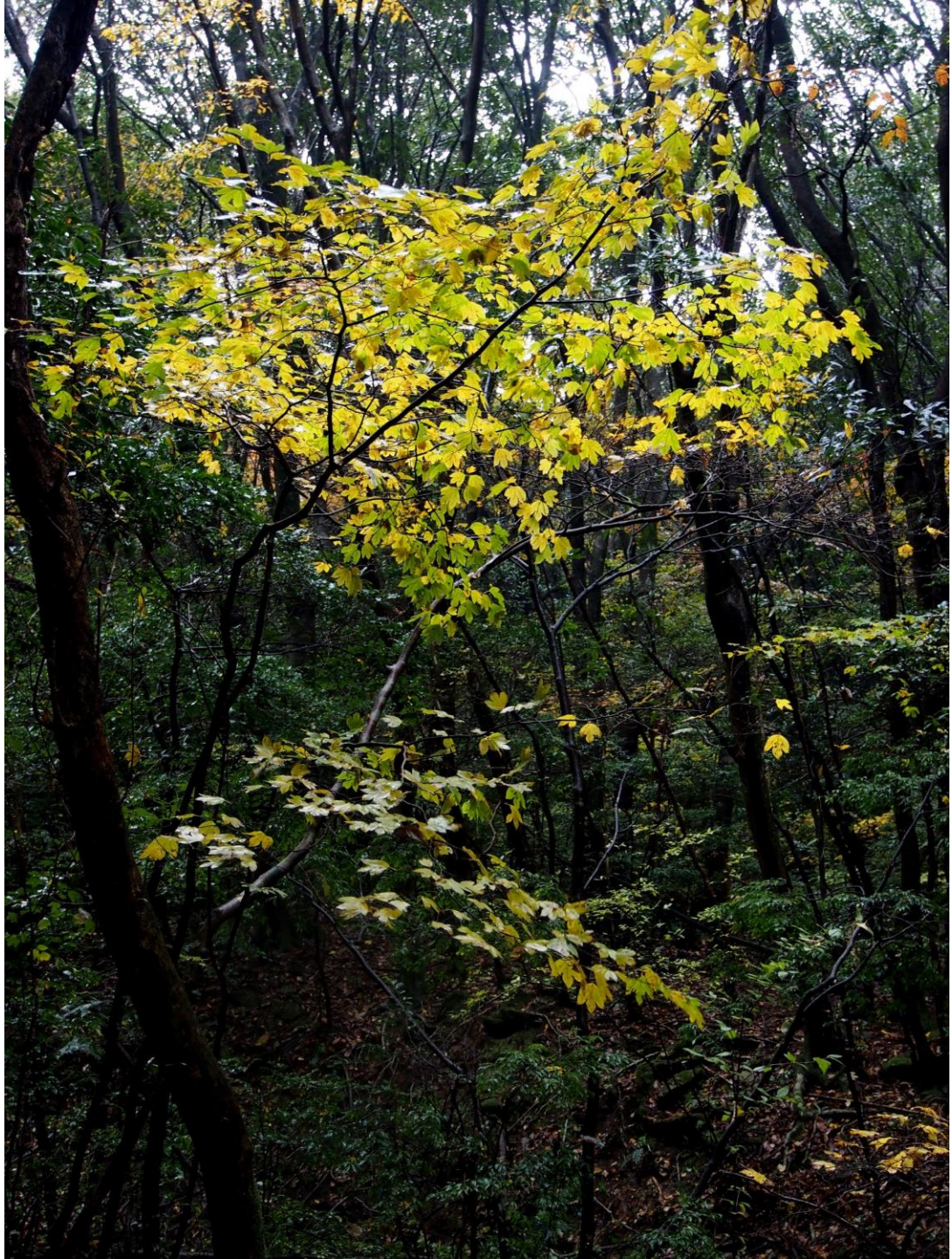






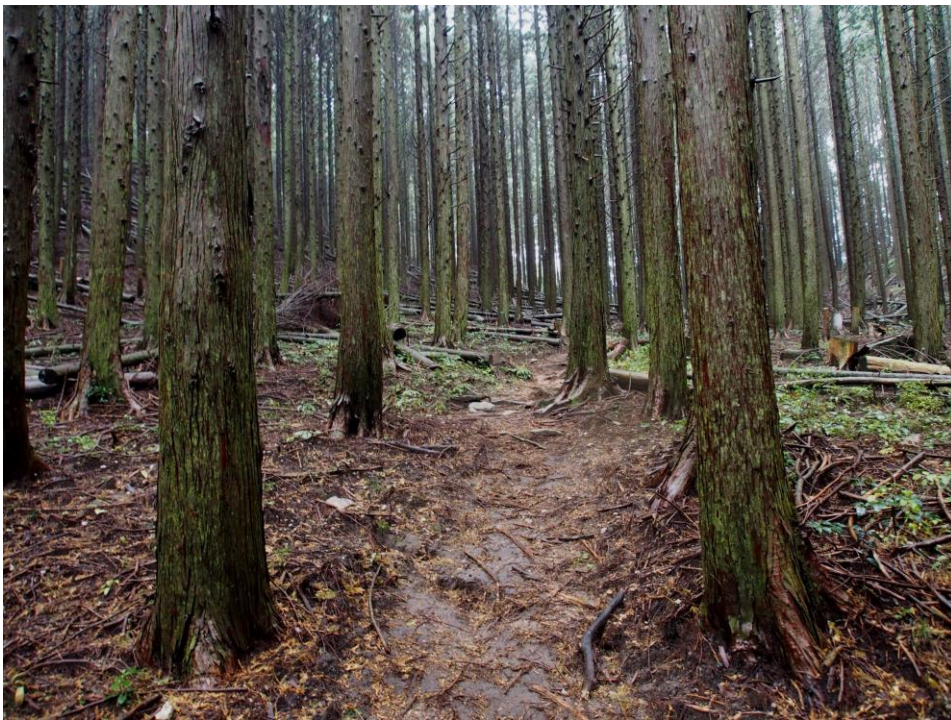
マムシグサ(蝮草)
サトイモ科







シロモジ(白文字) クスノキ科





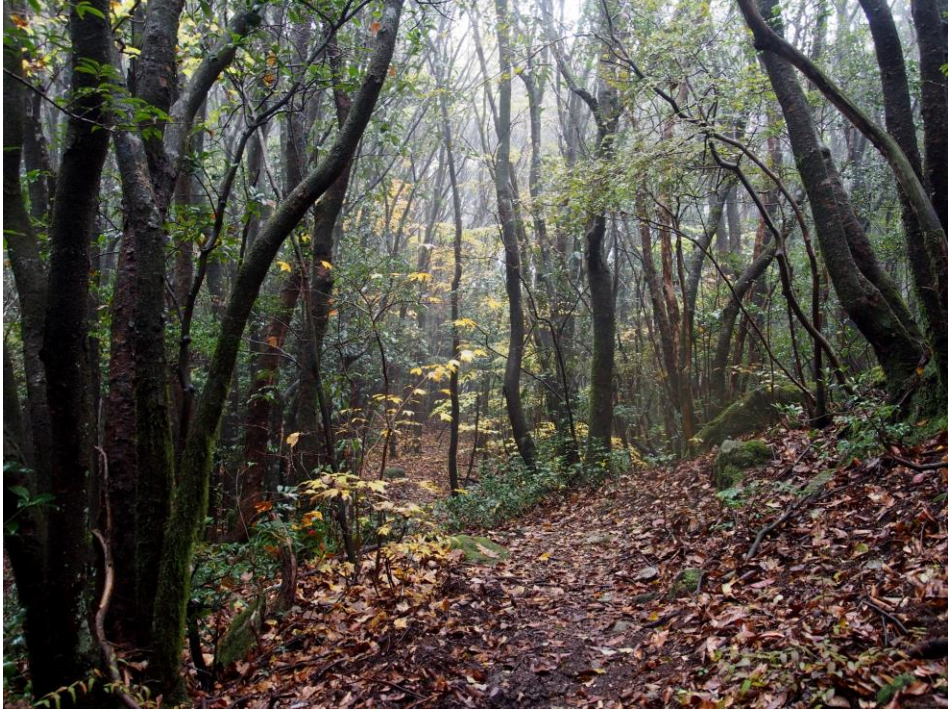
シロモジ(白文字) クスノキ科



シロモジ(白文字) クスノキ科









ツルシキミ(蔓櫛) ミカン科 常緑低木

ツルシキミ(蔓櫛) ミカン科 常緑低木





ナルコユリ(鳴子百合) ユリ科



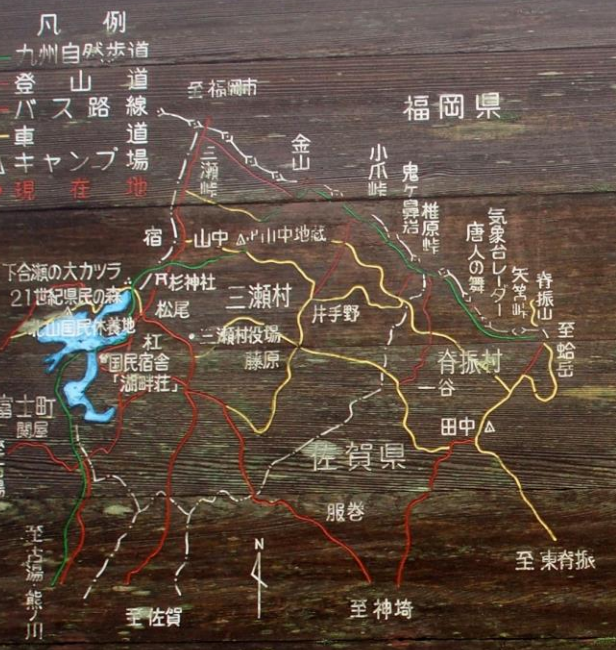
ナルコユリ(鳴子百合) ユリ科



金山(鍋島藩番所)

金山は 標高967メートル 脊振山系が花こう岩の地質から成り立っている中で、金山付近は、結晶片岩の層が出ており、古生代(約3億年前)には海の底であったことを示している。山頂からの展望はよく、江戸時代には鍋島藩の番所があったと伝えられており、一名熊ヶ城ともいわれている。

九州自然歩道



山中地蔵へ

この金山の肩から南の方へ急な坂道を500mほど下ると、勾配が少しゆるやかになり、三瀬峠への縦走路との三叉路に出る。右へ行けば三瀬峠へ行くが左へコースをとると、やがて急な下り道となり、ヒノキの植林地を抜けて、再び雑木林に入り、溪流沿いにどんどん下ると、石張りの歩道となり、二つの谷の合流点に出る。このすぐ下に小さな滝があり、これを左手に見て数分下ると林道(車道)に出る。更に500mほど下ると山中地蔵に着く。
 金山から山中地蔵まで25km、約50分ほどの行程である。

椎原峠へ

金山から佐賀、福岡両県の県境尾根を東の方へコースをとると、登り下りの多い尾根歩きとなるが、ブナ林の中を行く快適なコースである。30分ほど行くとイヌツゲの群落地があり、これを抜けると殆んど直角に尾根が曲っている。金山から約2.3km、1時間ほどで小爪峠に着く。小爪峠から又、登り坂となり約15分ほど登ると吉野山の山頂に着く。この辺りから岩稜のやせ尾根が続き展望のよい岩壁や、シャクナゲの群落が出てくる。吉野山から30分足らずで、尾根をはずれて左(東)へ一気に100mほど下ると、鬼ヶ鼻岩の大絶壁の上に出る。小爪峠から約45分の行程である。鬼ヶ鼻岩のつけ根から南へ下ると、約15分で林道の上ってきている峠にでる。これを下れば三瀬村井手野地区へ出るが、椎原峠はもう一つのピークを越したところで、三瀬村と脊振村の境界となっているところである。
 金山の肩から椎原峠まで、4.6km、約2時間ほどの行程である。



◎案内板、指路標等には、いたずらしない。
 自然公園は国民の財産。マナーを守って！
 自然公園は生活に潤いと活力を与えくれる国民共進の貴重な財産です。
 他が遠くから入る自然公園の管理、その役割を担っているのは、私たち国民です。
 美しい自然をいまでも守りつづけて、自然公園を大切にしたいですね。

環境庁 佐賀県



金山
967m

金山 九六七m

健成省国土地理院

早良区役所

12:25 金山967m山頂

石釜・国民宿舎
5.5km 3.5km

富良野市
金山・九六七M

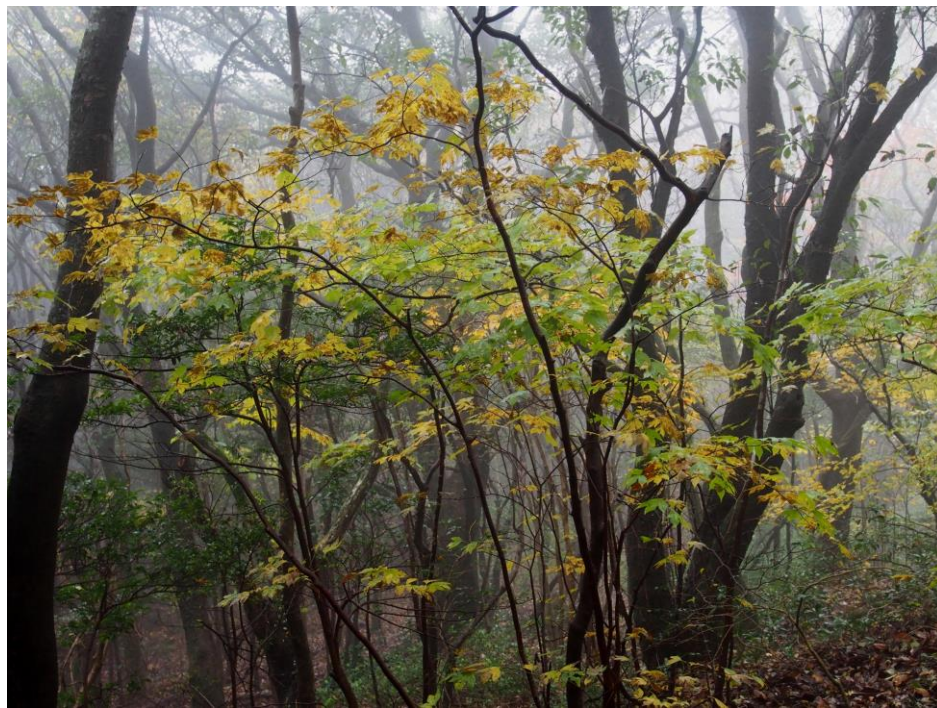
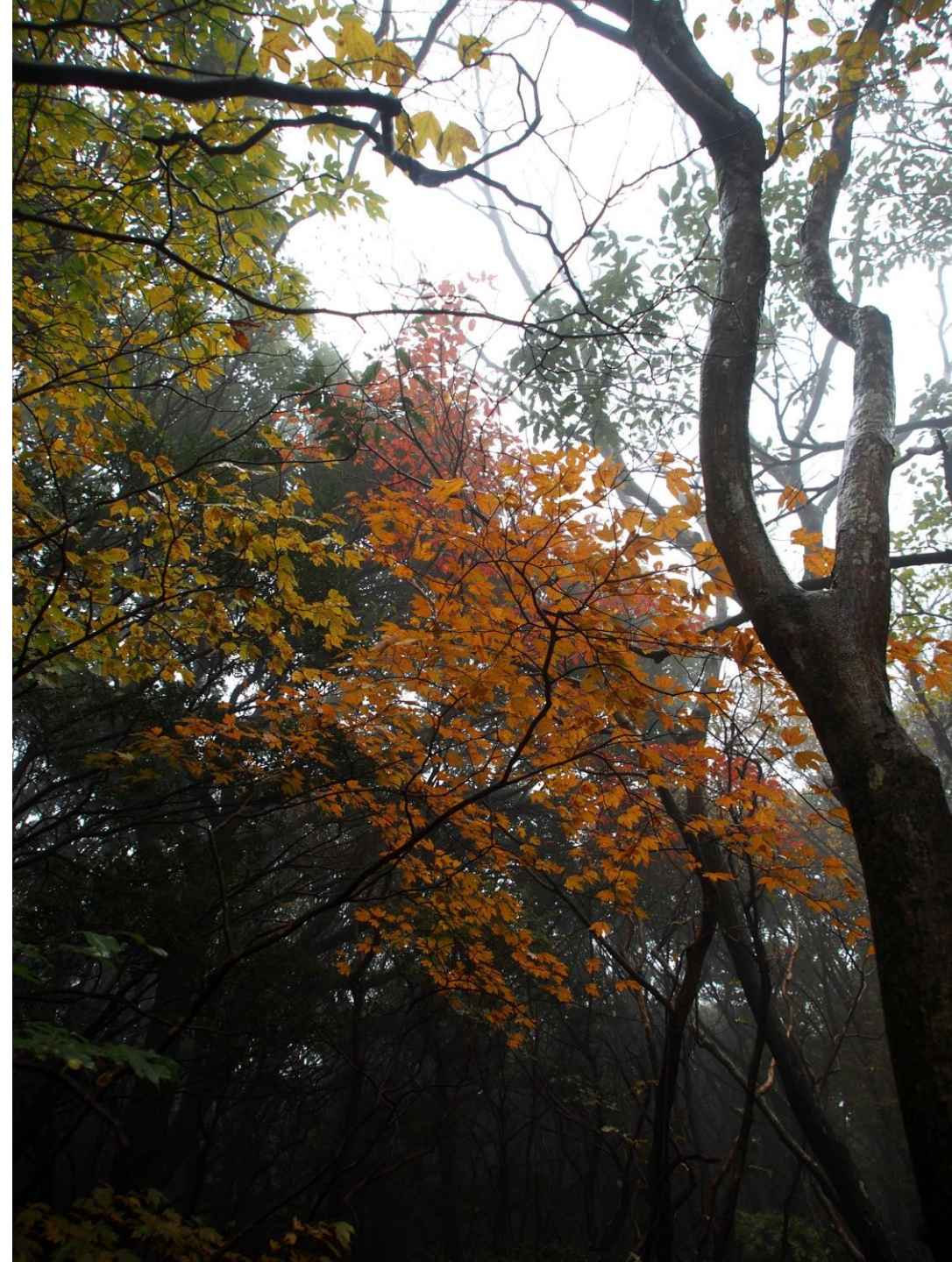
金山頂
967m
標高千石の郷
3.5km

建設省国土地理院
大切にしましよ三角点

金山
早良区役所



12:35 金山967m山頂の
一等三角点



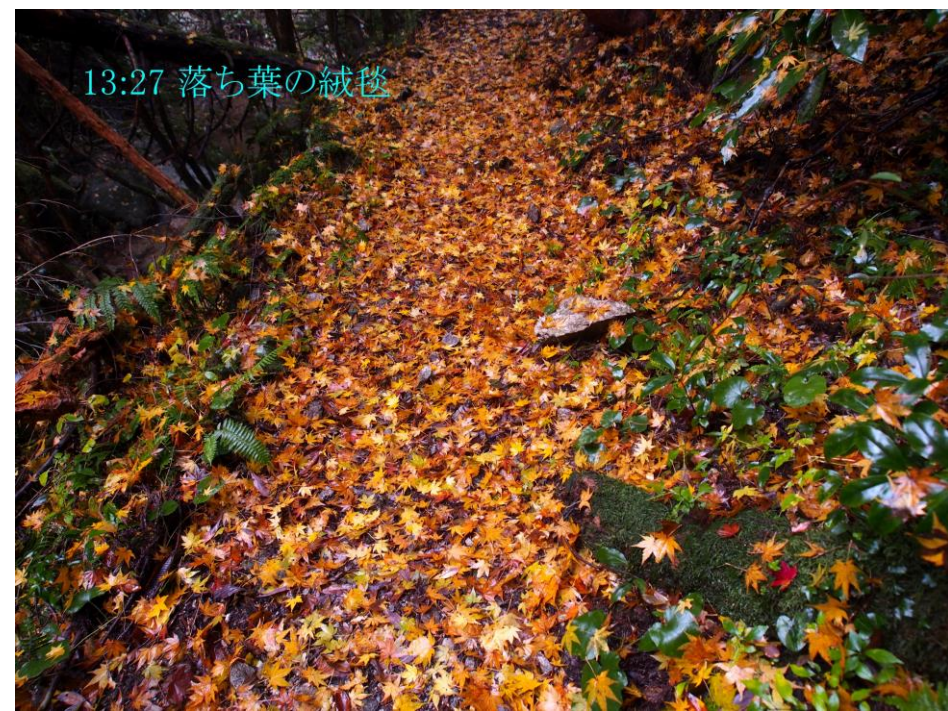
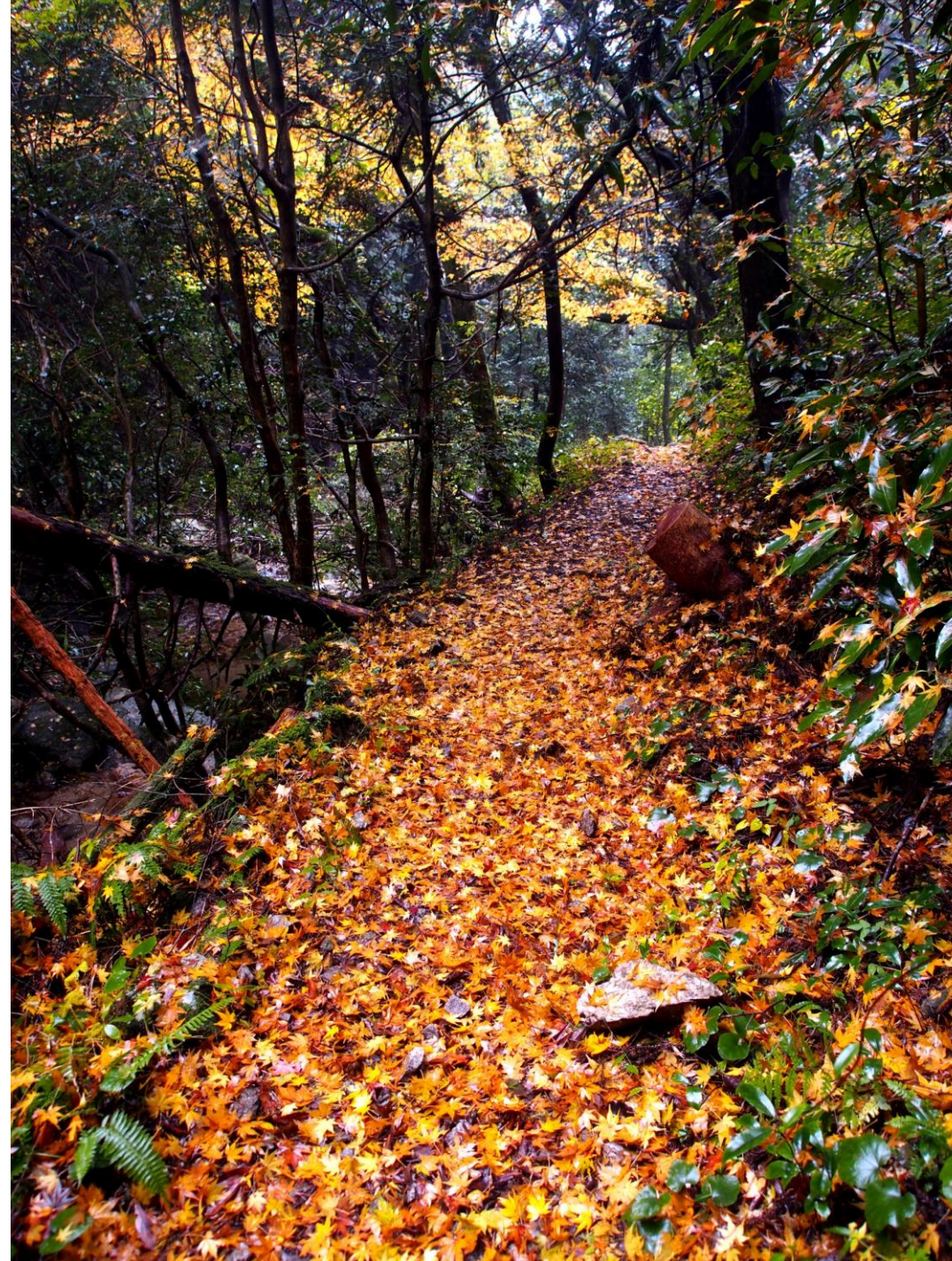


12:53 三瀬峠との分岐













フユイチゴ(冬苺) バラ科



13:35 登山口に到着

E N D